

# シネマズライフ

2013年6月21日発行 第41号

http://p.booklog.jp/users/rion-takagi

貴樹 諒音

【最近のこれはお見事！】

『かしこい狗は、吠えずに笑う』女子高校生二人のお話だが、内容が皆目わからない…。ま、いいか(笑)。

【最近のこれはまずいぞー！】『ロマン・ポランスキー 初めての告白』

いやいや、「初めての告白」じゃないんだから、それにポランスキー監督は、そうそう何回も「告白」はしまいと思うぞ。

## 映画の風景 日本の風景

※ 鹿児島県・内之浦宇宙空間観測所 ※



昔、『マーズアタック』という映画があった。こんな映画だ。突然！地球に多数の火星人のUFOが来訪。そこで、アメリカ大統領・ジェームズ・デイルのスタッフ達は歓迎するかしらないが大揉め。結局、アリゾナ州の砂漠に基地を作り歓迎する事にする。一方、火星人の来訪を多くの人が悲喜こもこもで見守っていた。ラスベガスの不動産王アートは、これを機会に一儲けしようと思いい、倦怠期の妻のバーバラは火星人を救世主と期待する。

テレビリポーターのナタリーは、恋人がいながら宇宙生物学者のケスラー教授といっ仲に…。

さて、火星人のファーストコンタクト当日。タカ派のデッカー将軍がセレモニーに出席。そして、当初はUFOから降り立った火星人は友好的と見られたが、突然！人間を襲い始める！火星人は世界中で暴れだし、とんでもない事態に。しかし、科学力などに追いつけない地球人は太刀打ちできない。しかし、意外な事から事態は一変する…。

宇宙にあこがれるのは、人間としての「性」？しかし、逆に緑の地球に憧れている火星人がいるかもしれない(笑)。

内之浦宇宙空間観測所は、世界中を驚かせた「はやぶさ」を打ち上げた場所。地球からすごい物が来たぞ！と歓迎する火星を見てみたい気もする。

『マーズアタック』1996年 アメリカ 監督：ティム・バートン主演：ジャック・ニコルソン ナタリー・ポートマン サラ・ジェシカ・パーカー

ネタ元は、往年のSF映画『宇宙戦争』とトレーディングカード。ティム・バートン監督なので一味も二味も違います。

### コラム ツイッターは便利なグッズ？と想う件

前編

インターネットが普及し始めてから、人々の情報量の得る量が飛躍的に伸びた。

84年9月慶應義塾大学と東京工業大学を接続。同年10月に東京大学が接続され、これが日本でのインターネットの起源だそう。それから、急速に普及し、わずか29年つというのはいすこい事だ。

思えば人類は、情報がどれだけ得る事ができるかで歴史が変わってきた。たとえば原始時代。隣村と敵対していたとして、隣村の戦える若者は何人いる？村に何人の女性が残っている？それらの情報を使い戦いに備えるのだ。

古代の日本でも邪馬台国が

近隣の村を支配できたのも、卑弥呼が『日食・月食』の時期を知っていて『不思議な力』として人々に畏怖されていたからだとも言われている。

人々が知らない事を「知っている」というのは、強大な力だ。たのだ。

やがて、『村』が集まり『国』として成立するようになる。広い『国』での情報の共有方法が問題になってくる。その情報伝達方法として使われ始めたものに山々に台を作り煙を上げる『のろし』がある。映画『二〇〇一年宇宙の旅』では、火を使えるようになった類人猿が、地球を制した事を示唆しているが、その火を使い『のろし』で情報を伝達したというのも面白い。

以下次号。



船にとってほんの一昔前は灯台は重要な情報元でした。

インターネットでも読めるミニコミ誌『シネマズライフ』ですが、  
諸事情の為次回発行を7月**12**日に変更させていただきます(-\_-;)。よろしくお祈いします**m(\_ \_)m**。



